

第4回EU・日本科学政策フォーラム「変革する科学の地図—グローバルなイノベーションシステムにおける国家と産業」（ご案内）

■日時：平成25年10月5日（土）13時00分～18時00分（受付開始：12時30分）

■会場：グランドプリンスホテル京都（京都府京都市左京区岩倉幡枝町1092-2）

■趣旨：

経済的困難にもかかわらず、各国の研究・開発に費やす予算は増えており、国家のイノベーションシステムの近代化・再構築に向け、真剣な努力が行われている。これらはすべて、激化する国際競争に遅れをとらないための取り組みである。

この激しい競争の中でより成功を収めるのは、自国の学問的優位性を育成すると同時に国際的ネットワークに参加している国である。

競合国やパートナーとの情報共有・研究協力がカギを握る時代となった。各国は自国の研究者の国際化を求め一方、彼らを失いたくはない。どのような仕組みがこの一見矛盾する要求に応えられるのか。

国際的な共同研究は、異なる考え方の直接対立や異なる文化・市場との統合や接点をもたらす。しかし、産業の観点から見ると、共同研究は問題があり過ぎないか。

次世代技術を準備するとき、共同研究の重要な目的のひとつは国際的基準作りであろう。技術は多くの国で受け入れられなければならない。競争と協力との間の間合いをどのように取ればよいのか。国際的共同研究の重要性が増す中、世界規模の研究会議の設立に向けた努力が行われている。今日、欧州連合（EU）の「ホライゾン2020計画」は世界で最も開かれた共同研究プログラムである。

各国の科学機関は課題に立ち向かう準備ができていますか？他方、産業界の要望は何か。次世代製品の開発に向け、どのように絡んでくるのか。

■主催：

駐日欧州連合代表部（EU加盟各国）  
政策研究大学院大学

■参加予定者（一部）【敬称略】

ジェネビエーブ・フィオラソ	フランス高等教育・研究担当大臣
マウロ・デルアンブロジーオ	スイス教育科学技術庁長官
マリア・オロフスカ	ポーランド科学高等教育副大臣
カルメン・ヴェラ	スペイン研究開発・イノベーション担当副大臣
原山 優子	内閣府総合科学技術会議議員
マルコム・ハーバー	欧州議会科学技術選択評価委員会（STOA）副委員長
中村 道治	独立行政法人科学技術振興機構理事長
ポール・ポイル	サイエンス・ヨーロッパ議長、 英国経済社会研究会議長
西口 泰夫	京セラ株式会社相談役（元社長）
マルタ・クロフォード＝ハイツマン	アレバ社研究・イノベーション担当上級副社長

■詳細URL：<http://www.euinjapan.jp/media/news/news2013/20130911/105840/>

■参加費：無料

■使用言語：英語（日本語・英語の同時通訳あり）

■登録：御氏名・御所属を記載したメールを以下のアドレスまでお送り下さい。  
DELEGATION-JAPAN-St@eeas.europa.eu

<お問い合わせ先>

駐日EU代表部科学技術部（担当：バーバラ・ローデ、トム・クチンスキ）  
TEL:03-5422-6050, 6058

☆-----☆  
日本学術会議では、Twitterを用いて情報を発信しております。  
アカウントは、@scj\_info です。  
日本学術会議広報のTwitterのページはこちらから  
[http://twitter.com/scj\\_info](http://twitter.com/scj_info)

☆-----☆  
\*\*\*\*\*  
学術情報誌『学術の動向』最新号はこちらから  
<http://www.h4.dion.ne.jp/~jssf/text/doukousp/index.html>  
\*\*\*\*\*

=====

日本学術会議ニュースメールは転載は自由ですので、関係団体の学術誌等への転載や関係団体の構成員への転送等をしていただき、より多くの方にお読みいただけるようにお取り計らいください。

=====

発行：日本学術会議事務局 <http://www.scj.go.jp/>  
〒106-8555 東京都港区六本木7-22-34